

グリーンイノベーション基金事業の 成果最大化に向けた取組について

令和3年12月14日

経済産業省

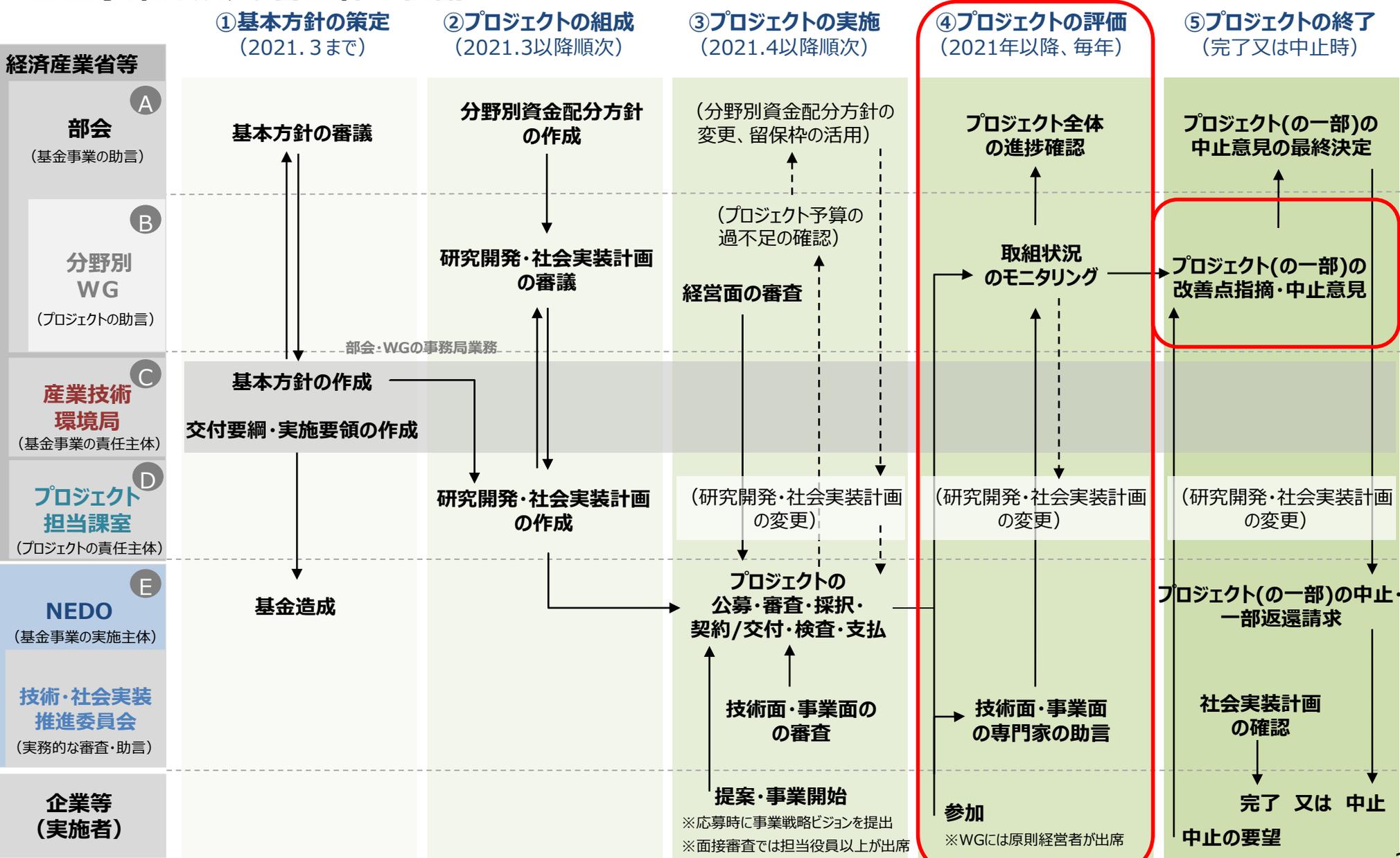
**1. 競争環境の変化等を踏まえた柔軟なプロジェクト
推進のあり方について**

2. プロジェクト間の連携のあり方について

3. 留保枠の活用について

1. 競争環境の変化等を踏まえた柔軟なプロジェクト推進のあり方について①

基金事業における各主体の役割



1. 競争環境の変化等を踏まえた柔軟なプロジェクト推進のあり方について②

- 最大10年もの長期にわたるプロジェクトを効果的・効率的に実施するためには、進捗状況の評価に加え、プロジェクトを取り巻く競争状況の変化等を踏まえ、柔軟な資源配分を実現することが重要。

(論点) 各分野の競争状況の変化等を定期的にモニタリングし、WGにおける経営者との対話を通じて、実施企業による機動的な経営判断を促すことにしてはどうか。

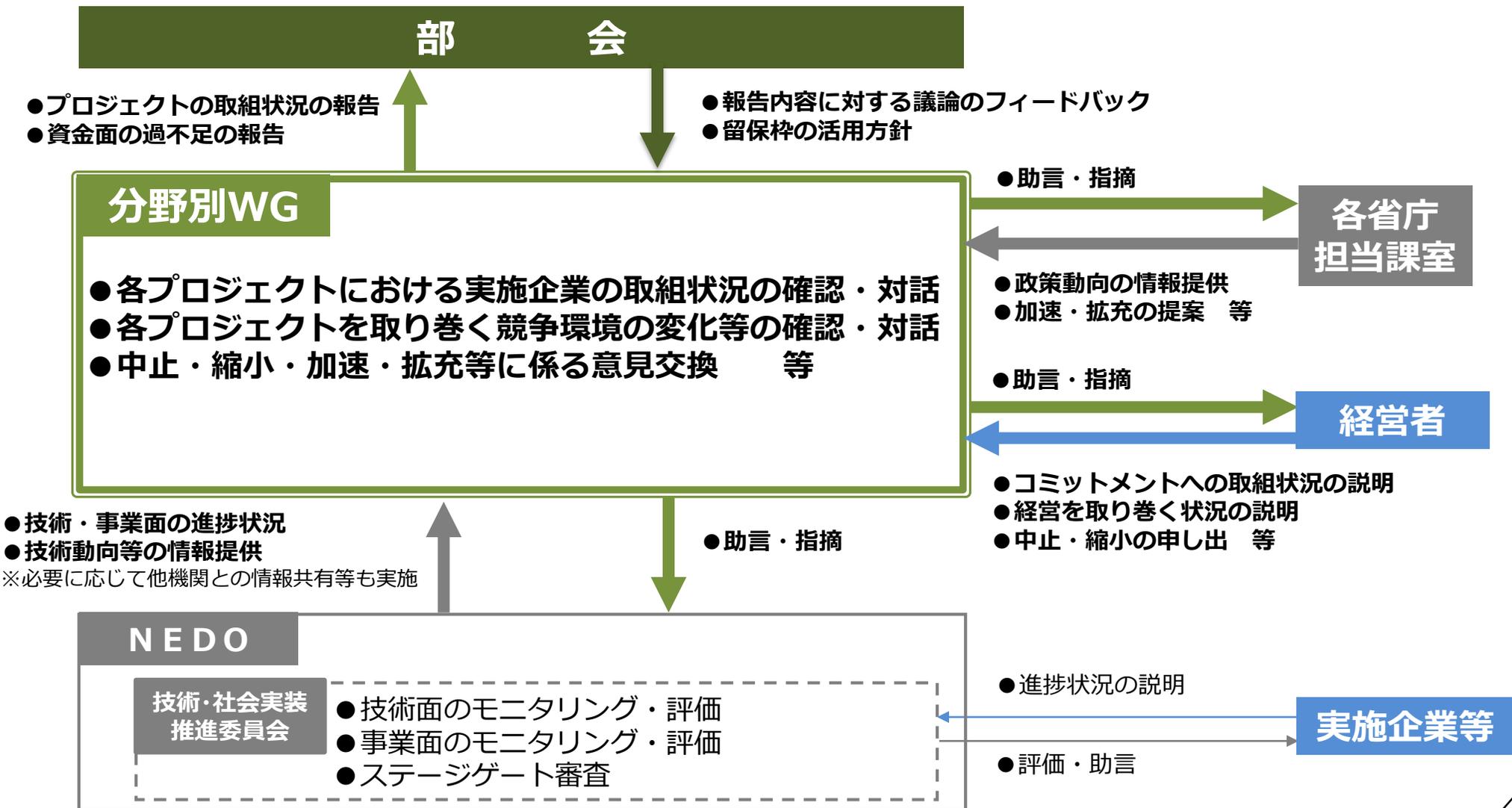
【プロジェクト内容の見直しを行う類型】

類 型	基本方針における判断主体	基本方針の主な該当箇所
(1) ステージゲート (SG)	・技術・社会実装推進委員会※ (NEDOに設置)	3. 支援対象 (6) 研究開発要素
(2) 取組状況が不十分な場合の事業中止	・分野別WG (中止意見) ・部会 (最終決議)	4. 成果最大化に向けた仕組み (2) コミットメントを高める仕組みの導入 ①取組状況が不十分な場合の事業中止・国費負担額の一部返還
(3) 競争環境の変化等に伴うプロジェクトの中止・縮小及び加速・拡充	【中止・縮小】 ・実施企業の申し出に基づき分野別WG (部会に報告)	4. 成果最大化に向けた仕組み (2) コミットメントを高める仕組みの導入 ①取組状況が不十分な場合の事業中止・国費負担額の一部返還
	【加速・拡充】 ・分野別WG (計画変更審議) ・部会 (決議 (留保枠の活用が必要な場合))	3. 支援対象 (2) 資金配分方針

※「研究開発・社会実装計画」の変更を伴う場合にはWGでの審議が必要

1. 競争環境の変化等を踏まえた柔軟なプロジェクト推進のあり方について③

(論点) 経営者等との対話を踏まえ、WGは必要に応じて経営者や各省庁担当課室、NEDOに対して助言や指摘を行うこととしてはどうか。



1. 競争環境の変化等を踏まえた柔軟なプロジェクト推進のあり方について④

(論点) WGと経営者との対話においては、個々のプロジェクトの実施に際して、事業環境の変化をどのように捉え、それに対してどのように対応していくかについて、例えば、以下のような視点から説明を求めることとしてはどうか。

【経営者に説明を求める視点の例示】

- ① 国際的合意やそれに基づく国内制度の変更等により、前提としていた事業環境に変化が生じていないか。(事業環境が改善しているか、悪化しているか。)
- ② 産業構造の変化により、当該技術への需要に変化が生じていないか。(需要が増大しそうか、減少しそうか。)
- ③ 重要特許を海外企業が先行取得していたり、ビジネスの構造上、後発での事業参入への障壁が極めて高かったりするなど、勝負が決したと考えざるを得ない状況になっていないか。
- ④ 技術的課題の解決への見通しはどうなっているか。(想定する技術水準の達成が困難であることが判明したり大幅に進捗が遅れていないか。反対に想定の成果を達成しているなど進捗は順調か。) 仮に順調に進んでいる場合、追加的な資金を投入して加速化や拡充すると効果的な取組はあるか。

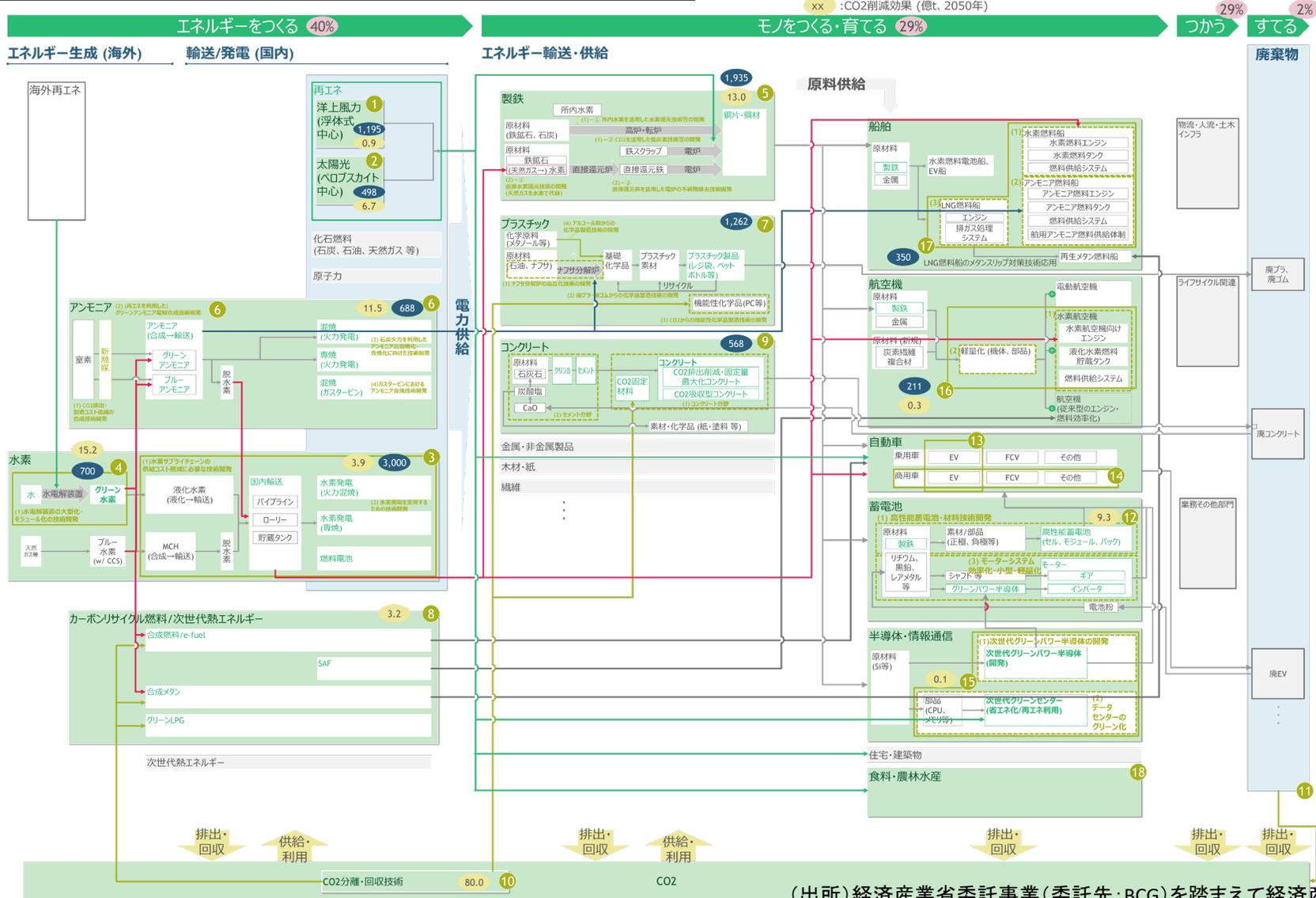
1. 競争環境の変化等を踏まえた柔軟なプロジェクト
推進のあり方について
2. **プロジェクト間の連携のあり方について**
3. 留保枠の活用について

2. プロジェクト間の連携のあり方について①

- 基金で実施する予定のプロジェクトについて、相互の関連性を意識しつつ全体像を整理中。

プロジェクトの位置づけ・相互関連分析（イメージ）

xx : G1基金における予算規模(億円、2021.9時点) xx : 日本の全CO2排出量に占める割合(2018)
 xx : CO2削減効果(億t、2050年)

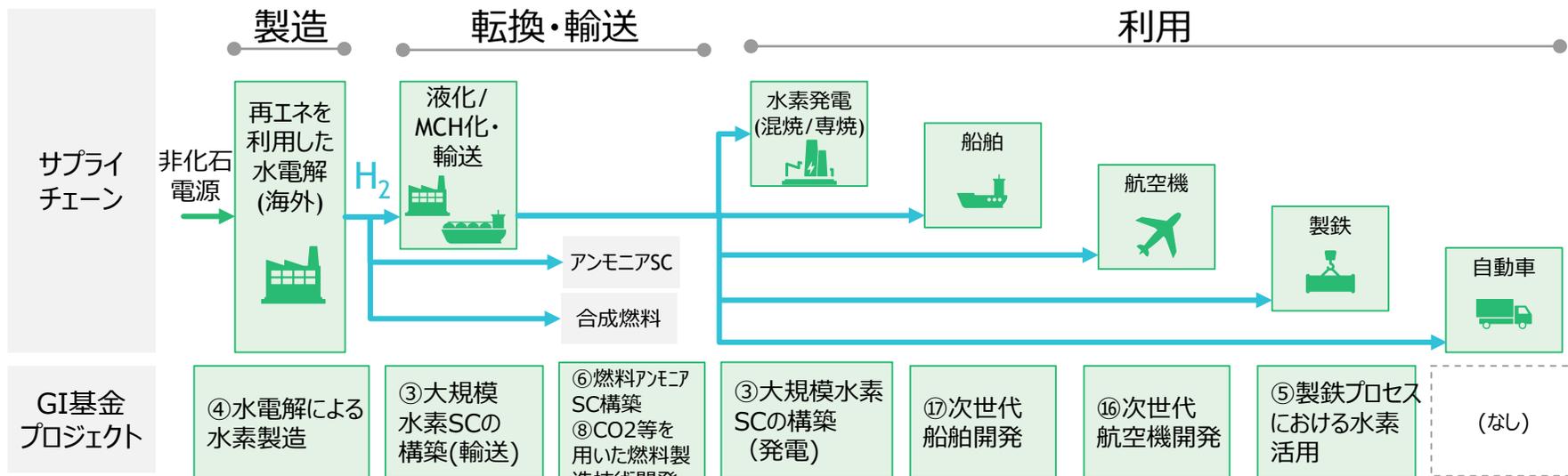


(出所) 経済産業省委託事業(委託先: BCG)を踏まえて経済産業省にて整理

2. プロジェクト間の連携のあり方について②

- 例えば、水素は上流の製造・輸送と下流の利用の間における、**需給バランス等の整合**が必要。
- 加えて、**物理的インフラや制度面の整備、人材育成等も並行して進んでいるか**を意識する必要。

水素サプライチェーンに関わるプロジェクト間連携のイメージ



プロジェクト間連携の精査における視点	物理的なインフラの有無	需給バランスの整合性	価格水準の妥当性	制度的手当の必要性	人材育成の必要性	公共投資の必要性
	実際のインフラが構築されているか	下流の需要を満たすだけの上流側の供給量が想定されているか	需要側で許容できるコスト構造が実現できているか	実用化を見据えて規制の緩和や新たな制度の創設等が検討されているか	実用化を見据えた人材育成が見込まれているか	実用化に向けて、公共投資が必要な可能性があるか

3. プロジェクト間の連携のあり方について③

- 前回の議論を踏まえ、**各省庁の担当課室及びNEDO等の関係者は**、サプライチェーンにおける関連性の高いプロジェクト同士の連携を促進する観点から、**定期的に関係者による情報共有の機会を設ける**こととする。

関係者のイメージ（参加者は柔軟に設定）

関係省庁：プロジェクト担当課室、その他関連する課室（知財・標準化、規制、投資等関連する課室）

NEDO：担当推進部、技術戦略研究センター

実施者：研究開発担当者、経営企画部 等

※必要に応じて大学や政府内の他機関に協力をお願いすることも想定。

1. 競争環境の変化等を踏まえた柔軟なプロジェクト
推進のあり方について
2. プロジェクト間の連携のあり方について
3. **留保枠の活用について**

3. 留保枠の活用について①

グリーンイノベーション基金プロジェクトの進捗状況

(12/14時点)

分野	プロジェクト名	進捗状況	基金拠出額上限（億円）
普及促進 グリーン 電力の	①洋上風力発電の低コスト化	審査中	1,195
	②次世代型太陽電池の開発	審査中	498
エネルギー 構造転換	③大規模水素サプライチェーンの構築	採択済	3,000
	④再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造	採択済	700
	⑤製鉄プロセスにおける水素活用	審査中	1,935
	⑥燃料アンモニアサプライチェーンの構築	審査中	688
	⑦CO ₂ 等を用いたプラスチック原料製造技術開発	公募中	1,262
	⑧CO ₂ 等を用いた燃料製造技術開発	WG審議中	調整中
	⑨CO ₂ を用いたコンクリート等製造技術開発	公募中	567.8
	⑩CO ₂ の分離・回収等技術開発	WG審議中	調整中
	⑪廃棄物処理のCO ₂ の削減技術開発	WG準備中	調整中
産業構造 転換	⑫次世代蓄電池・次世代モーターの開発	公募中	1,510
	⑬電動車等省エネ化のための車載コンピューティング・シミュレーション技術の開発	WG審議中	調整中
	⑭スマートモビリティ社会の構築	WG審議中	調整中
	⑮次世代デジタルインフラの構築	公募中	1,410
	⑯次世代航空機の開発	採択済	210.8
	⑰次世代船舶の開発	採択済	350
	⑱食料・農林水産業のCO ₂ 削減・吸収技術の開発	WG準備中	調整中

基金からの拠出が決定している金額：1兆3,327億円

3. 留保枠の活用について②

- 分野別資金配分方針に記載した18プロジェクトのうち、現時点においてWGで審議中又はWGでの審議に向けて準備中となっているものの組成を進めるため、**留保枠を3割程度から2割程度に変更**し、これらのプロジェクトに充てることをお認めいただきたい。

WG審議中・準備中のプロジェクト

審議中	準備中
⑧CO ₂ 等を用いた燃料製造技術開発	⑪廃棄物処理のCO ₂ の削減技術開発
⑩CO ₂ の分離・回収等技術開発	⑱食料・農林水産業のCO ₂ 削減・吸収技術の開発
⑬電動車等省エネ化のための車載コンピューティングシミュレーション技術の開発	
⑭スマートモビリティ社会の構築	

3. 留保枠の活用について③

- また、残りの留保枠を用いた、**新規プロジェクト等の検討を進める**ことについてもご了解いただきたい。
- なお、新規で実施するプロジェクトの内容や数については次回部会において議論することとしたい。

追加プロジェクト組成に向けた想定スケジュール

令和3年12月中旬～令和4年1月下旬	関係省庁においてプロジェクト内容を検討
令和4年1月下旬～	事務局で内容を精査し「分野別資金配分方針」の変更案をとりまとめ
令和4年2月以降	同変更案について部会で審議・議決
令和4年3月以降	順次、分野別WGでの議論を開始